

2009年11月26日

NHK 会長 福地茂雄様

NHK 理事・放送総局長 日向英実様

NHK エグゼクティブ・ディレクター 西村与志木様

## 『坂の上の雲』の放送開始にあたっての質問

～ なぜ今、軍国日本を讃美するドラマなのか ～

NHK を監視・激励する視聴者コミュニティ

共同代表 湯山哲守・醍醐 聰

皆様におかれましては日頃より NHK の放送番組の充実にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。さて、NHK は来る 11 月 29 日から 3 年間にわたって、スペシャルドラマ『坂の上の雲』の放送を予定し、目下、大々的なキャンペーンを行っています。その際、NHK は、ドラマ化の企画意図を次のように説明しています。

「『坂の上の雲』は、国民ひとりひとりが少年のような希望をもって国の近代化に取り組み、そして存亡をかけて日露戦争を戦った『少年の国・明治』の物語です。そこには、今の日本と同じように新たな価値観の創造に苦悩・奮闘した明治という時代の精神が生き生きと描かれています。この作品に込められたメッセージは、日本がこれから向かうべき道を考える上で大きなヒントを与えてくれるに違いありません。」

そうでしょうか？ 私たちは『坂の上の雲』をこのように読み取ってドラマ化することに強い危惧を感じ、以下のような質問を提出します。これについて、一括ではなく、項目ごとにそれぞれの趣旨にかみ合うようなご回答を 12 月 9 日までに別記宛に文書でくださるよう、お願いいたします。

### 1. 原作者の遺志をどう受け取るのか？

『坂の上の雲』の原作者・司馬遼太郎氏は生前、多くの映画会社やテレビ局から原作の映画化、ドラマ化の申し出を受けた際、原作を映像化することによってミリタリズムが鼓舞されることを恐れ、申し出をすべて断ったことは皆様もご承知のとおりです。そうであれば、貴局がなおも原作をドラマ化され放送されるに至った理由を明快に説明される必要があります。

これについて、ドラマの制作を担当された西村与志木氏は、「東西冷戦の対立は過去のものになったことから司馬さんの危惧は解消できると思」ったと述べています（西村与志木「映像界の志を引き継ぐ、アンカーとしての誇りと責任」、『NHK スペシャルドラマ・ガイド 坂の上の雲 第一部』日本放送出版協会刊、2009 年、169 ページ）。本当に解消できるのでしょうか？

【質問 1-1】 東西冷戦の対立は過去のものになったと認識することで、原作を映像化することによってミリタリズムが鼓舞されることを恐れた司馬氏の危惧がなぜ解消されるのか、その理由〔因果関係〕はまったく不明です。わかりやすくご説明ください。

【質問 1-2】 司馬氏の遺志を顧みるのであれば、晩年、氏の朝鮮観に揺らぎがあったことに注目する必要があります。彼は亡くなる 7 年前、ソウルの青瓦台で盧泰愚大統領と対談した折に、「私なども、李氏朝鮮が日本の悪しき侵略に遭う（1910 年）まで朝鮮といえば朱子学一枚岩で、そこには開化思想や実学（産業を重んじ、物事を合理的に考える学派）などはなかったと思っていた。いまは、だれもそうは思っていない。」（『文藝春秋』1989 年 8 月号、93 ページ）と語っています。これは、日清戦争を日本による侵略戦争ではなく祖国防衛戦争であると捉え、朝鮮を「どうにもならない」国で、「韓国自身の意思と能力でみずからの運命をきりひらく能力は皆無とってよかった」（第 2 分冊、50 ページ）などと記した原作の見方とは食い違っています。

司馬氏の遺志を尊重するのであれば、晩年の司馬氏のこうした朝鮮観の揺らぎを考慮する必要があると考えますが、いかがですか？

## 2. なぜ今、『坂の上の雲』なのか？

【質問 2-1】 アジアの近隣諸国との友好・平和関係の確立が大きな課題になっている今日の時代状況とのかかわりでいいますと、原作が日清・日露戦争を日本による侵略戦争ではなく、祖国防衛戦争とみなしている点を黙過することはできません。原作はまた、日本国内の内乱制圧の「同士討ちで同胞が大金をかけて殺しあうくらいなら、海をこえて朝鮮を討った方がよい」という小村寿太郎の言葉を肯定しています（文春文庫、新装版、第 2 分冊、34 ページ）。さらに、原作は 1894（明治 27）年に日本が朝鮮への出兵を閣議決定したことを「単に出兵であり、戦争を起こすということではない」（同 56 ページ）と記し、清との勢力均衡を維持し、国家の名誉を保全するためであるとした閣議決定をそっくり肯定しています。

こうした記述を含む『坂の上の雲』を、2010 年に韓国併合百年を迎える今、NHK が総力を挙げて長編ドラマ化することが、アジアの中の「日本がこれから向かうべき道を考える上で」どのようなヒントになるのか、ご説明ください。

【質問 2-2】 また、アジアの近隣諸国との友好・平和関係の確立が大きな課題になっている今日の時代状況とのかかわりでいうなら、「戦争という、このきわめて思想的な課題を、わざわざ純軍事的にみるとして、日露戦争というのは日本にとってやるべからざる戦争であった。あまりにも冒険的要素がつよく、勝ち目がきわめてすくない、という意味においてである」（第 8 分冊所収、あとがき 2、314 ページ）と記し、「古今東西のどの戦争の例をみても、日露戦争の日本ほどうまくやった国はないし、むしろ比較を絶してすぐれていたのではないかと思われる」（第 8 分冊所収、あとがき 2、320 ページ）と言ってはばからない原作を今、NHK が総力を挙げて長編ドラマ化することが、アジアの中の「日本がこれから向かうべき道を考える上で」どのようなヒントになるのか、ご説明ください。

【質問 2-3】 以上指摘したように、『坂の上の雲』は日清・日露戦争を、その後に日本が起こした

満州事変・第2次世界大戦と続く戦争とは区別して、侵略戦争ではなく「愛国的栄光の表現」（第2分冊、53ページ）、「祖国防衛戦争」（第8分冊所収、あとがき5、344ページ）とみなしています。NHKは原作をドラマ化するにあたって、原作のこうした歴史認識をどのように評価し、扱われるのか、ご説明ください。

### 3. 『坂の上の雲』は現代の日本人にどのような勇気と示唆を与えるのか？

NHKは『坂の上の雲』を、主人公たちが「少年のような希望をもって国の近代化に取り組み、そして存亡をかけて日露戦争を戦った『少年の国・明治』の物語」と評価した上で、「現代の日本人に勇気と示唆を与えるものにしたい」とドラマ化の意図を記しています。はたして、『坂の上の雲』をそのように読みとることはできるのでしょうか？ 私たちは原作からどのような生きる勇気を得ることができるのでしょうか？

〔質問3-1〕 『坂の上の雲』は日清・日露戦争を題材にした歴史小説ですが、その内容は交戦当事国、特に両戦争を指揮した日本の陸海軍及び政府の戦争戦略・作戦の巧拙を実況中継しながらに描いた小説です。そこには日本軍の戦闘を指揮した職業軍人の人物評や日本の命運を左右した作戦の巧拙に関する記述はあっても、日本軍によって追い詰められ、殺傷された朝鮮、中国の市民がなめた苦難、不幸の描写は全くと言ってよいほどありません。

NHKは『坂の上の雲』をドラマ化するにあたって、こうした原作の際だったナショナリズム、排外主義的傾向をどのように評価し扱われるのか、ご説明ください。

〔質問3-2〕 他方、原作における日本軍の側の記述はどうでしょうか？ そこでは、前線に配備される兵士を将棋の対局にたとえて「持ち駒」（第4分冊、310ページ）とみなし、国内に待機させられた予備隊を前線に送ることを「戦場は新鮮な血を欲していた」（第4分冊、312ページ）からだと記されています。

もともと、たとえば、原作のなかで旅順総攻撃を描いた箇所では、「作戦当初からの死傷すでに2万数千人という驚異的な数字にのぼっている」（第4分冊、308ページ）という記述はあります。しかし、原作はこれを「戦争」ではなく「災害」とみなしています。旅順総攻撃を指揮した乃木希典少将と伊地知幸助中佐の無能力に帰すべき災害だということです。

NHKは『坂の上の雲』をドラマ化するにあたって、「国運」を掲げた侵略戦争の非人道的な実態に目を向けず、戦争の災禍の責任を特定の指揮官なり個々の作戦の巧拙に解消した原作をどのように評価し、扱われるのか、ご説明ください。

〔質問3-3〕 上記の〔質問3-1〕、〔質問3-2〕で紹介したような原作の好戦的記述をみてもなお、NHKは『坂の上の雲』の主人公たちが「少年のような希望をもって国の近代化に取り組」んだ軌跡を描いた小説と評価されるのかどうか、お聞かせください。

また、主人公のひとり秋山真之が「軍艦の分類でいえば砲艦に近く、とうてい大海戦の主役たりえない」「筑紫などという小さなふねにのっているようなことでは、主決戦場にはのぞめないであろう」（第2分冊、66～67ページ）と思い、大艦に乗って主決戦場にのぞむことを念願した彼の志が現代の日本人にどのような「勇気と示唆」を与えると皆様はお考えか、お聞かせください。

い。また、ドラマではこうした秋山真之の志をどのように扱われるのか、ご説明ください。

私たちは陸・海軍で侵略戦争を陣頭指揮した『坂の上の雲』の主人公たちの生きざまを「少年のような希望をもって国の近代化に取り組ん」だ行動と評するのは侵略戦争の残虐な現実を覆い隠し、侵略戦争の先兵の役割を担った彼らの行動を美化する危険極まりない評価だと考えています。むしろ、私たちは『坂の上の雲』の主人公たちの志、生きざまは不条理な国家の意思に従うことがいかに自他を不幸に陥れるかを悟らせる警鐘の意味を持つと考えています。

以 上